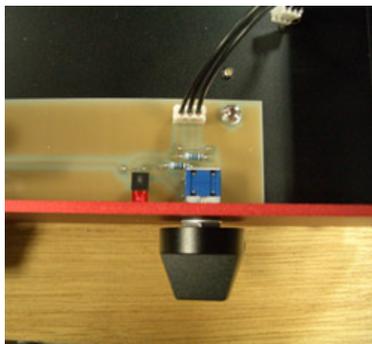




pre amplifier
TYR1213



●電源回路

オーディオにおいて電源であるAC100Vを機内でどう扱うかは、大変難しい問題です。特にプリアンプにおいては、アナログプレーヤーのカートリッジの自然起電力信号を始め、極小微細でナイーブな信号を機内において取り扱うので、なおさらです。ご存知のようにAC100Vは50Hzまたは60Hzで変動しています。これはオーディオに飛び込むとハムといわれている低域の信号ノイズであり、カートリッジ等の出力の大きさはMM型で3.5mVぐらいであり、なんと100Vとは電圧の大きさは4万倍程の差があります。電流の差もあるので電力的にはさらに差があります。そのようなノイズの塊を機内に堂々と引き回すわけには行きません。もちろんTYR1213ではそこに最大の配慮しており、AC電源を最短でDC電源に変換する工夫がしてあります。

前面にあるパワースイッチでは100Vをオンオフせず、リレーをコントロールすることでDC変換のレギュレータに最短距離で入力されます。

コンシスのハイエンドのアンプはDCアンプなので、DC電源は±の2電源で動作しています。その電源を創出する為の回路は、スイッチングタイプのレギュレータ回路を採用しています。スイッチングタイプのレギュレータは市販され始めた当初は、高周波ノイズを発生しオーディオには不向きとされてきました。しかし、そのスペースファクタの高さはアナログレギュレータを遥かに凌ぎます。電源容量に対して影響をできるだけ少なくする為には10倍以上の容量が必要なオーディオアンプ回路にとっては、むしろもってこいのレギュレータといえます。また最近のスイッチングタイプのレギュレータはさまざまなノイズレスの手法をとっており、高周波のもれも極小になってきています。TYR1213は20000μファラッドのデカップリングコンデンサの使用等や、アンプ側で更にノイズの影響が少ない回路を採用する等と併せて、より現代的で現実的なセレクションの電源回路構成となっています。

●入力切替

AC電源同様、入力されたオーディオ信号も長く引き回してはいけません。オーディオ信号も最短距離でリレーに入力され、前面のロータリースイッチのコントロールにより信号がセレクトされます。もちろんリレーの接点での音質劣化を避ける為、ツインクロスバー金接点の高信頼のリレーが採用されています。

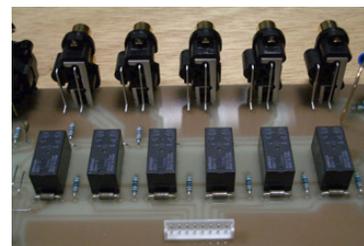
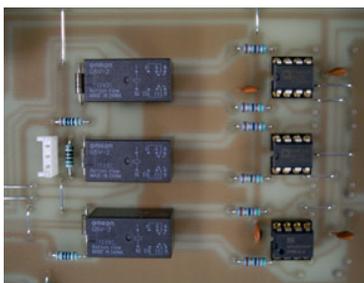
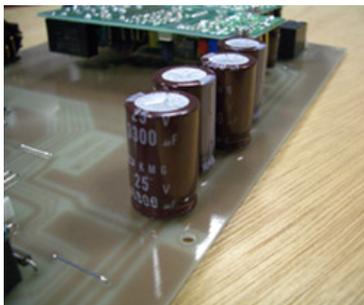
TYR 1213では、オーディオ回路において厳選されたオペアンプを主に構成されています。オペアンプは、ディスクリートで構成されたものに比較すると音の存在感等では引けを取るものの、その品質の安定感の高さや環境に左右されないなどの現実的な長所が多々あります。TYR1213は高音質を実現しつつ最小限のケアで品質を維持できる実用性が最大の特徴であります。

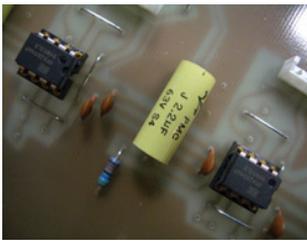
●出力切替

出力の信号も入力同様、高音質で高信頼のリレーを使って、前面のロータリースイッチで切替える方式を採用しています。

アンバランス・アウトには、パーブラウン社のオペアンプであるOPA2604を採用しています。もちろんこれも多数のオペアンプからの音質を最重視のセレクションになっています。

バランス・アウトにはナショナルセミコンダクター社のSSM2142を採用しています。SSM2142はPM I社が高音質プロオーディオ用に開発したバランスアウト用のアンプです。オペアンプでバランス信号を創出するのに較べて、ホット信号とコールド信号の歪が極めて少ないのが特徴です。また、どちらの信号をグラウンドにショートさせてアンバランスで使用してもレベルが変わらないという、トランスと同じように扱える利点があります。





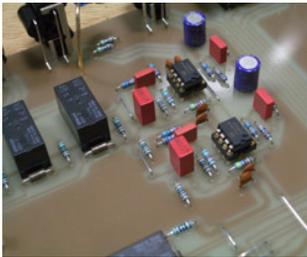
●カップリング・コンデンサ

オーディオ信号のカップリングコンデンサは、コニシスがイタリアのテマ社から直接輸入したポリカーボネートフィルムコンデンサです。
世の中から消えつつある幻のポリカーボネートコンデンサの音はまさに貴重です



●バランス・インプット

バランス・インプットのキャノンコネクタはスイス・ノトリック社のメタルジャケットタイプのPCBに直接搭載するタイプです。
入力のオペアンプはバーブラウン社のOPA2604を採用しています。



●フォノアンプ

フォノイコライザーアンプは、ディスクリートでは難しいオペアンプならではの、2段構成になっています。
最も音に影響するフィルターカーブを担っているコンデンサは、西ドイツWIMA社のフィルムコンデンサです。
超低域のACカップリングにはサンヨー社のOS（有機半導体）コンデンサを採用しています。
もちろんオペアンプはOPA2604です。



●グラウンド端子

実はとても大事なパーツであるグラウンド端子です。
この端子の品質のよっては音のクオリティーが何段階も変わってしまうこともあります。
TYR1213では、レコーディング機器等でもお馴染みのスイス・ライテル社の高信頼端子を採用しています。

製品仕様

- 入力**
- 入力数 ライン5系統（ステレオ） / PHONO1系統（ステレオ）
 - 入力端子 XLR3-31タイプ（キャノンメス） バランス：1系統（1：GND / 2：HOT / 3：COLD）
RCAピン アンバランス：5系統
 - 最大入力 +24dBu
 - 入力インピーダンス 30kΩ（バランス入力/アンバランス入力） ゲイン6dB（バランス入力） 0dB（アンバランス入力）

PHONO (MM) 入力

- ゲイン 45dB @ 1kHz
- 入力インピーダンス 47kΩ (MM)

モニター出力

- モニター出力数 2系統（ステレオ）
- モニター出力端子 XLR3-32タイプ（キャノンオス） バランス：1系統（1：GND / 2：HOT / 3：COLD）
RCAピン アンバランス：1系統
- 出力インピーダンス 51Ω（バランス出力/アンバランス出力）
- 負荷インピーダンス 600Ω以上
- 周波数特性 5Hz ~ 300kHz @ 1.23V

寸法、その他

- 外形寸法（突起部を除く） 433W x 49H x 243D (mm)
- 重量 3.0kg
- 電源電圧 AC100 ~ 230V
- 最大消費電力 0.5W (STANDBY) 60W (ON)
- 付属品 ACケーブル、取扱説明書、保証書